

プロジェクトリーダー：瀬戸市役所学校教育課

事業実績調書

(1) プロジェクト名	子どもの個性を輝かせる支援体制プロジェクト
(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)	
<p>1 9年間で子どもたちの成長を見通し、継続した支援をおこなうこと、</p> <p>2 発達障害などがある子どもたちの特性を把握し、子どもの困り感に寄り添った支援の継続により、不適応行動や不登校などを防ぐこと</p> <p>3 支援方法を専門的な知識をもった大学教員より指導していただく場をもつことで、小中学校教員の資質向上をはかること、</p> <p>を目的として行った。</p> <p>1 昨年度と同じ大学の先生に観察してもらえたことで、改めて児童生徒の成長や変化についてアセスメントを行えた。保護者の対応について小中教員で共有することができ、兄弟関係などもあり、情報の共有が非常に有効だった。また、小中9年間だけでなく、保育園幼稚園の先生にも参加していただいたことで成育歴が分かり、困り感のある児童生徒についてその背景を探り、支援の糸口が見えた。</p> <p>2 実施スケジュールを6月からとしたことで、4月に新しい学年となり、はじめの緊張感が抜け、新しい学年、学級での困り感が児童生徒に現れる時期であったことから、不適応行動、不登校を未然に防ぐことができた。</p> <p>3 具体的な対応について専門的な見地から詳しく教えていただき、担任教諭の指導の参考になった。また、相談会、事例検討会として機会をつくることで、担任だけでなく、対象児童生徒に係る教員が、共通の対応をとることができるようになった。</p> <p>という成果が見られた。発達障害等、発達にかたよりがある子どもたちの支援をとぎれることなく続け、子どもの特性を把握し、子どもの困り感に寄り添うことで、瀬戸市のすべての子どもたちが個性を輝かせながら楽しく充実小中学校生活9年間を送れるようにした。</p>	
(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)	
【巡回相談・支援指導検討会】	
6月8日(水) 原山小学校で実施 (名古屋経営短期大学 木村拓磨先生) 参加教員5名・発達支援室相談員	
6月9日(木) 品野台小学校で実施 (金城学院大学 二村彩先生) 参加教員12名・発達支援室相談員	
6月15日(水) 東山小学校で実施 (金城学院大学 永原知佳先生) 参加教員4名・発達支援室相談員	
6月15日(水) 西陵小学校で実施 (名古屋経営短期大学 木村拓磨先生) 参加教員3名・発達支援室相談員	
6月17日(金) 幡山東小学校で実施 (常葉大学 松瀬留美子先生) 参加教員7名・他小学校教諭1名・中学校教諭1名	
6月24日(金) 陶原小学校で実施 (金城学院大学 川瀬正裕先生) 参加教員6名・発達支援室相談員	
6月24日(金) にじの丘小学校で実施 (常葉大学 松瀬留美子先生) 参加教員4名・発達支援室相談員・中学校教諭1名・幼稚園関係者1名・保育園関係者1名	
6月28日(火) 水野小学校で実施 (金城学院大学 今村友木子先生) 参加教員8名・発達支援室相談員	
9月30日(金) にじの丘中学校で実施 (常葉大学 松瀬留美子先生) 参加教員6名・小学校教諭1名	

報告書より

- ・担任の今の対応を認めていただき、さらなる方法を示唆していただいたことがうれしく思った。
- ・今後の対応についてケース会議の必要性などが共通理解できてよかった。
- ・目標の達成について、スモールステップでの必要性がよく分かった。幼・保・小・中の繋がりの中でどこまでの目標設定にしていけばよいか、長い目で成長を考えられるようになった。
- ・昨年度の様子と比較していただき、成長していることを実感できた。児童の成長に目を向けていき、ポジティブアプローチを心掛けたい。

(4) プロジェクトの今後の課題と展望

学校行事との調整、講師の先生の予定を合わせることも大切だが、多くの関係諸機関と連携するための日程連絡調整がなかなか難しい。特に今年度は小中の連携だけでなく、幼保の連携を呼びかけたが、幼保の先生が参加していただける時間に合わせる事が難しかった。また、授業などの関係で多くの教員を参加させることが難しいこともあった。

現場からは、こういった相談会、事例検討会を定期的、継続的に開くことを今後も望まれている。1学期に指導していただき支援してきたことを、年度内に大学教員の方がもう一度訪問していただき、共有する機会、評価する機会を作ってほしいという声がある。